

日本生物診断研究会、臨床研究の中間結果を報告

さる10月9日、生物がもつ類まれな能力を医療に活用することを目指し、医療界を牽引する識者によって2018年8月に設立された「一般社団法人 日本生物診断研究会」の発表会を行った。代表理事の瀬戸泰之教授(東京大学消化管外科学)はじめ各理事による挨拶の後、同会が生物診断の先駆けである線虫がん検査『N-NOSE』の研究を推進していくことを発表。この検査の臨床研究に協力する「四国がんセンター」と「埼玉医科大学国際医療センター」による最新データを伝える中間結果が報告された。



左から、廣津崇亮氏((株)HIROTSUバイオサイエンス 代表取締役)、栗田啓氏(四国がんセンター 名誉院長)、高本眞一氏(社会福祉法人賛育会 特別顧問)、瀬戸泰之氏(東京大学 消化管外科学 教授)、江里口正純氏(新山手病院 院長顧問)、良沢昭銘(埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 教授)

■ 四国がんセンター：臨床研究速報

「線虫により尿検体を用いたがん診断法の実用化に関する研究」(期間：2017年2月～)では外来がん患者353例(5大がんを含む、26種のがん：計353例)における感度¹⁾が90.1%であることが発表された。

■ 埼玉医科大学国際医療センター：臨床研究速報

「線虫 *C. elegans* を用いたがんスクリーニングの有用性に関する研究」(期間：2017年6月～)では、膵臓がん群59例、対照群²⁾53例、計112例において、感度が94.9%、特異度³⁾が84.9%という中間結果を発表した。

1) 感度：がん患者をがん患者と見分ける確率

2) 対照群：消化器に悪性腫瘍以外の疾患がある患者。主に膵臓(例：膵嚢胞、膵炎、良性腫瘍)、胆管(例：総胆管結石)に疾患がある患者

3) 特異度：健常者を健常者と見分ける確率

一般社団法人 日本生物診断研究会 事務局
(株式会社HIROTSUバイオサイエンス内)

TEL：03-6277-8902

E-mail：info@j-sbd.org <https://www.j-sbd.org/>